

大通秘密論

全

213
1963
16

213



廿五番

五



夢の夜の夢ハ文が
 一帯て地小墮ハ何ヤト錦小
 一軸也
 紙金字小
 叙ニ

長嶋町
 大野屋惣八

往昔播州^{その}を^く妙小^{えんし}揚半^{さうま}を^{らげ}物^{まさ}と^らし^る者^{もの}
 有り^{あり}は^は揚半^{らげ}を^ら姓^{せい}ボ^りて^て形^{けい}俵^{せい}の^な名^な少^{せう}あり^{あり}
 也^{なり}今^{いま}戲^げ場^ば示^しる^る物^{もの}六^むは^は彼^{かの}を^を妙^{せう}れ^れ物^{もの}六^むが^が
^{その}真^ま名^な何^{なに}り^りて^てり^りて^てる^る者^{もの}の^の境^{きょう}鳥^{とり}が^が次^{つぎ}
 久^くと^と買^か福^{ふく}せ^し一^{いつ}蓮^{れん}女^{にょ}總^{そう}角^{かく}が^が事^{こと}四^し造^{ぞう}

する^{する}者^{もの}二人^{ふたり}れ^れ物^{もの}六^むあり^{あり}一^{いつ}黒^{くろ}舟^{ふね}が^が比^ひ備^び
 あり^{あり}れ^れ結^{むす}尾^び女^{にょ}の^の心^{こころ}何^{なに}飛^と也^{なり}此^{こゝろ}其^{その}情^{じやう}誠^{まこと}
 あり^{あり}る^るは^はい^いて^て男^{おとこ}の^の美^{うつく}魄^{はく}あり^{あり}れ^れ
 全^{ぜん}元^{げん}象^{さう}と^と身^み根^{こん}あり^{あり}具^つ小^{せう}寺^じに^に何^{なに}釈^{しやく}先^{せん}
 じ^じバ^バ凡^{ぼん}八^{はち}百^{ひゃく}七^{しち}十^{じゆ}年^{ねん}そ^{その}の^の視^し瞻^{ぜん}の^の何^{なに}

いすし 伝書傳入んと 總角と菅束が
事小奇今物六が 説城述て 俠者の氣
象小抄女の 情城何く いら古の 總角小
比沢 總角が 貞節い 拔厚小 事多
る 金一 ちか 小 廊中 ず一 の 形

城の 飛勺 酒集て くらぶ 風雅 世世 施
えんと 天人 戲小 少道 地出て 人間 小傳へ
しむ 魚毛 蛇足の 説と 下 小 等
間此 看城 ちを 少と ちつ也

安永七 戎の 契 夢中 菴記

- 今助六が説
- 中車ゆゑの助六
- 京町の強
- 菅原が廓落
- 鬘の久太郎
- 總角が虚無僧
- 玉鶴漆の井が幸

附タリ 總角が再苦界

大連秘密論

今助六が説

この今助六といふ俠者有り。その名をハ云ぐ、
 一といハ古六をくり。多ぶむ。此はけき頼ひ。かく。
 心も形も雅す。て。ちツレも。やう。き。その。おき。
 之れ。新。中。一。き。俊傑。ある。が。あ。ま。ふ。く。う。し。小
 の。け。り。若。て。や。う。く。ま。ひ。下。り。一。也。い。ま。ま。ご。か。人

中川をいよとちげんと目花凡俗にて。四日午後
魚りる。何とくみかといふ。使者こまものおっほいと

助さんくトらぬめ六みらうまのふんちせま
ぬいめ六えんごの吉がよめてゆふ夜しアツをさ
おまひが、さつあやるとして。さつとのしつはして
何しこあまて中ちさうのぼとろりちまひ
とゆめ感々ふいして何さやしこらふめ六終よ

きでやせやめ六あまのこ又をさうもきぬ
でめ六今ぬいてせよめ六えよふもぬい
め六あつアをさうのいひらきやうしてきでひ
め六はいでホりふがあまのげこでほるうちを
る人さるもあまぬいとあんなうをせし
め六人づのあんなとにせらーいひる後いせ
けいではるもいせふいあんでしよしよ

オウと、サ、小、さ、な、成、す、の、は、け、て、な、り。
何、は、い、時、に、何、を、さ、て、な、り、何、は、ち、ぞ、す、の、
と、こ、ら、は、一、と、か、い、も、は、な、し、と、ら
や、セ、や、む、り、や、り、の、む、ん、さ、り、さ、は、ら、が、能
い、お、心、も、し、と、して、な、ゆ、一、と、ら、さ、な、し、
せ、ら、ん、で、い、そ、い、け、し、あ、ま、し、も、お、り、の、こ
と、お、し、て、い、や、そ、そ、と、小、な、む、ん、ど、し、系、へ、

と、あ、ま、し、こ、ひ、を、さ、い、何、ん、あ、や、は、成、ら、ん、ち、や、で、五
と、あ、ま、し、け、が、あ、ま、の、さ、ら、ら、ゆ、が、何、も、し、の、ご、ん、
下、し、そ、い、は、な、り、あ、ま、し、こ、ひ、あ、ま、さ、の、あ、ま、し、
て、し、て、あ、ま、し、ん、る、ら、い、お、し、ゆ、の、あ、ま、し、
や、ふ、そ、や、の、や、せ、**四** **六** **七** **八** **九** **十** **十一** **十二** **十三** **十四** **十五** **十六** **十七** **十八** **十九** **二十**
お、ま、し、も、ち、い、の、お、ひ、さ、ん、か、け、ち、あ、や、り、お
が、あ、ま、し、何、ひ、も、な、る、も、の、ら、**五** **六** **七** **八** **九** **十** **十一** **十二** **十三** **十四** **十五** **十六** **十七** **十八** **十九** **二十**

けはあらんごふ結て。ちひそくあつらんや
バ雅どとちもつて。しの上の火どろりやんぞ
やうごろとやうのぞくもあどててもやう
ふもごうつて。何んくばるもじいばつた
あししーくもぬひあつちやうあ
くあかんねいはきいひいでぬくをい
くごてぬし大ぶの周がちぎてほいひも
七

あ そんなら舟もちやや。

中車出行助六

あふ河草正とこる金せい何り。オちさん
をふして。艶色^{あざなみ}なるぬいのをちくばらも
あまもてきいふ春にふる雨のぬいませぬし
一巻^{あき}料のそのころは何らが中ふあつてあふ
く看する十病とつらるいはねがらんしつと

[あま] それでとらんちがえてちぢいぬい
 とつやそ [ちやを] ああてと人ゆえてと
 ちぢいぬいとてと人ふいとれる様
 あいぬい—てばあるのとつとふあ
あまのまの あまのまの あまのまの あまのまの
とちがとつて とちがとつて あまのまの あまのまの
あまのまの あまのまの あまのまの あまのまの
 あまのまの あまのまの あまのまの

それでとらんちがはる様ごとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが
 ちぢいぬいがとらんちがとつと [茶や] つが

つらんきるのしりぞくかかし志い葉
が。とーオもちぐふと。ありのいせぬぐへ
びく。さく。ほのさあ。く。ま。やう。せん。の内。あつ。ひ。か。あ。さ。お
びく。さく。ほのさあ。く。ま。やう。せん。の内。あつ。ひ。か。あ。さ。お
びく。さく。ほのさあ。く。ま。やう。せん。の内。あつ。ひ。か。あ。さ。お
びく。さく。ほのさあ。く。ま。やう。せん。の内。あつ。ひ。か。あ。さ。お
びく。さく。ほのさあ。く。ま。やう。せん。の内。あつ。ひ。か。あ。さ。お
びく。さく。ほのさあ。く。ま。やう。せん。の内。あつ。ひ。か。あ。さ。お
びく。さく。ほのさあ。く。ま。やう。せん。の内。あつ。ひ。か。あ。さ。お
びく。さく。ほのさあ。く。ま。やう。せん。の内。あつ。ひ。か。あ。さ。お

あけまき

たぐり

たぐり

ちよよ。さるひ町のきんごまご
どし。八百屋とつて。その。八百屋はどあふつす
ぐん。さるひのんごま。笑を。八百屋はどあふつす
たぐり。あふが。あふ。え。ぐん。め。ご。それ。わ。ど。あ。ふ
に。丁。あ。志。つ。て。い。ち。ぐ。い。あ。ん。あ。ん。と。思。い。が。く。さ。ハ
し。き。う。の。あ。れ。は。あ。ま。つ。て。あ。ま。つ。て。あ。ま。つ。て。あ。ま。つ。て。
さ。ま。し。く。あ。ま。つ。て。あ。ま。つ。て。あ。ま。つ。て。あ。ま。つ。て。
ちよよ。さるひ町のきんごまご
たぐり。あんののしりぞ
あけまき。あんののしりぞ
あんがせしむのいごと。毎日ハおひでござん

あけまきハあまごに
八百屋がのりハあまご

あけまきハあまごに
八百屋がのりハあまご

たぐり

あけまき

せう十ぞう すつきりしけあひほけまき くら
 はんすもらんが志つてくそ十ぞう ども志
 て志ものごほけまき むり〜ひぬ〜
 ちふぬひでども志ひせう。じうもの毎
 のせふ。けつせは十ぞう どもものそひ
 おがほけまき むり〜ひそやアあんの
 りご十ぞう あんのるり。わっく。じう。

あけまのしんまき すれどねををなぐ
いし とうととせしよもしほけまき 初まよて
 りぶ。んちうのひ〜ア。あんととうあんを
 ぶら十ぞう どもんとあ〜として。達
 へほけまき そあア。ちち〜
 ちもしほけまき ぬ〜あちち。あど
 へあちんせ〜十ぞう ぶおがほけまき 何〜
 くるの〜ほけまき 何〜

ぢんせまいー。さくあいつて。已っぢ
がやうちりのふ。おあしあんせまいー。
いへし。この中でおねいきのおいど
でもるもの。いけまき。しそでと。さくふで
くれあんせと。焼くおぎんすが。もとの
いあゆが。あるが。おてくれあんすえ。たぞう。おあ
のりあふ。いけまき。ちやあつあんすあ。たぞう

あまき。いけまき。をらいへちあんせあ。んあが
ああや。百雀ぶとつくせが。あんあそああふ
そのふまて。いつもふ。まてくれあんせえ
あふ。あんとあのみ。あてくれあん。あつと
トヤア。あれもあひせうけれど。たぞう。せんあふ
一代記。あをきふ。あれいづくひ。玉川とよ
あぶ。あふり。あ川。いづくさ日しあつ。あ

ふふ大しちふらつておとりの糸くちを
下れおどのうらぶ志うけははまゝん下り
おとあつておそれもしせんどもさるもてままいさ
もしきほひあつたはひやのくアおぼすて
おれ又後志といふるいのみさうと大びい
の田いやでとまれそちしのでまろくが
せはあつたて。せしやうはひいあ

ぬしせはまゝあんのうんやておぎらとつふえ
あひ身のともあふおあせてつふあめ内
あつといふやうがゆゑぬんとはるるで
ともしはるるのれいであつたやせく
おとあつておそれもしせんどもさるもてままいさ
おれ又後志といふるいのみさうと大びい
の田いやでとまれそちしのでまろくが
せはあつたて。せしやうはひいあ

はけき

京町の強

十ぞうはははまごうのあをまのしのみよのふふ又と
あひと約せしむし京のりりぐ芝ふはり
はる友どちのこいれから取むすをえよよは
れうふふしださくまきまこいんまき
あどいんまきあどいすひはあてあひいざど
めくおぬふ物つがものめいふの十花

あつてくしはまきの十花そのまのめは
あいのりあひしそぞあははあひく
とらふりし十花がしはあひくあひく
はうで大地へりすめあひくあひく
十花はうまきあひくあひくあひく
む物つが肩はけく物つがくあひくあひく
二尺五寸のこいれはあひくあひくあひく
あひくあひくあひくあひくあひくあひく

海根はぐれとささぎかり。子丁のい木戸はあ。
大とんぼとあつ人ね。おろくおろくもいれ。
おろくおろくねど。馬のさびでるおもあうね。

菅原の廓落

すうげんはひつが。疵ごちひのちりあ。もたへ
思ふせてあぢも。血は柳。ぬきとせ。まんぞう
禿のそらねとあ。裏むゆる小糸らんほ。あとい
ほのゆけいせい。ちや。の口ゆるむけて皆

ね下小囃々。すぐるに不後。碎の志き。
すお。ねむき。あまよまも。ばくら大ドのほう
ちが。け。ねむき。あ。後。まぞと。祝ぶさ
の小梅。て。び。う。ら。め。て。ねむき。さ。祝。病。さん
と。い。ま。ど。し。ぬ。く。ほ。ま。碎。さ。う。らん。そ
ぞ。ね。ま。し。ま。と。い。く。天。つ。て。女。と。思。
ま。が。翠。の。ね。び。あ。り。む。り。さ。し。け。け。け。
すぐるそ。梅の一枚。よ。小。携。す。が。う。お。あ。向

昔^{コト}仲^{ナリ}多^クれと^ウあ^ラん^ボの^スの^ノり^トは^ハ梅^ノの
情^セあり。と^レれ^セき^クを^ノの^目む^ク一^ト忘^レこ^ト
や^ハぬ^ハ八^ノ日^ヤせん^ガり^ハ何^クも^ハけ^レた^ルの
何^ドも^レ未^キそ^レけ^レよ^ク一^ト極^メを^ハば
あ^ハめ^テ。疾^クひ^キせ^バこ^ノ水^ノと^ッて。
何^レい^ハ糟^ク漬^キ申^ス梅^ノま^シこ^ト一^トふ
た^ハ月^ノも^トお^もと^シれ^バ一^ト。

あ^もい^ハの^種と^ナり。と^テの^レや^語ん^ト。
家^ノの^手お^とま^シと^ナり。何^レい^ハ梅^ノ香^ノ
お^ハる^トと^シて^ハ一^ト枝^ノも^ハい^ハ代
お^とま^シて^ハ精^カを^ハば^シて^ハ一^ト種^ノ
一^トあ^らず^ト情^カを^ハば^シて^ハ一^ト種^ノ
お^とま^シて^ハ一^ト種^ノの^目め^クと^ナり^ト。
そ^レや^ハお^ハら^ズと^ナり^ト。

しち一人ふあぢが川。小坂走地川つ川
て中れ下小を坂おー。按つと日あとお走
やもい。おー川風あせしふと。きき玉坂
ての差あやくはぬく風とつこらも。料木
しもびくそのぬせい人。いのしと又つこ
ども。その片。てぬうきいづい。客一あす
てさ。魚ごまふ。ちんぞの禮もらる。

又次。髪よ。い。君もか。懸又。飯日の。こ
てあき。い。う。日とくふと。と。あ。た。六
の入おふ。は。とめ。の。花も。ち。対。ハ。ち。り。を。茶
と。掃す。たら。い。ふ。あ。感。の。か。一。する。時。
初。め。う。ら。も。そ。人。と。は。る。ま。た。あ。と。ふ。け。い。ふ
は。の。市。あ。も。い。そ。と。つ。ふ。せ。と。あ。ま。い
ハ。盛。歌。なる。け。は。り。だ。び。ん。と。飯。や。ふ。

かしら—あんどほやあ—てはあくど
 ー。させる時ふそちが糸小大なる哭なみひ
 きてらん素もともあや—き糸ふりつ
 へひなくと天神あまのつみのあせぬけを—うと。
 すがつらふともぬふへえすそらるあき
 己が忠臣ちゆうしん小あもしを、やうり—そや記封きふう
 とあひしうきり

さふのやうとふく風小樹こハやぬれて—せふ
 かりすぐるふに身もまじくと。えぞしと
 の身み又また了りふぐのやうさぬあひはらる。
 ぬしに胸むねのせきいへんぬをもの若ぬは
 あり—が糸いとむくなる寝のやう。こひと
 ちんとちりぬにすがらふ、ちねる。あつが
 ぬはこつて。己がぬへつこまう。あはあそ
 ますぬさせ すがら もこ、ぬ—、あそく

何かんかうせう瘧が すうき はみり
 ぶが、たうあうえんぶらして、
 まらん め ずいふらあつ、の
 き すうき やあ、やと、あせ、
 くれんせぬ め ひよに、はいて、
 あし、うき、ひで、はひ、そ すうき せん、
 り、あ、い、と、つ、ち、せ、の、く、せん、あ、せ

千山さんや、すを、史、こんと、あ、ん、
め ぼ、び、ぬ、い すうき しく、そ、
 せん、さん、えん、と、そ、
 えん、と、松、や、の、あ、ん、で、
め くる、い、ひ、ひ、
 一、客、で、ひ、く、が、
 月、ご、又、も、ま、ま、す、
 月、ご、又、も、ま、ま、す、
 月、ご、又、も、ま、ま、す、

しうまはふふなるおれが竹とんふりつる時ど
こを川もあんのつひもあくそのくれおし
と西へのわつて^{ヤク}あつて〇下つてくるくさ
よりふふ志つてやうもがしうんあつて
おぼつて^{すま}かぞあひあをあふどの
かどしふ志あんせ入^ああふまい
い^{すま}くあんふぞりあんー^あ

てすすといふあふいあつちもいねつて^{すま}
そんなあせせつてあはいといふ
をらあうせあんー^あくそふと
あつて^{すま}あんのあふとあつあんも
やまういあふ^あとあつてさあつあち
くさああつてもあつあつあつあつてい
やあしあそんなあつていあそそのく

日くづのぶがとあしづまはあもくちよぬ
は九きんじとちざさあづの二をひらよゆ
てわさい **すくら** 女の身であはくはくまらさ
ふんあんとうじてあむらんす **即若** くだけ
あいとあつてつものさい **すくら** 糸はく **口** 口 **わ**
あむの斗とあづるやうがなるもの **トめ** **わ**
がんとこじちががさきあゆりかまてと

すくら 粒してをじあんせえ **即若** 入すりの粒粒して
そとハがらぬとまへに **すくら** **そ**
あざとぞ **トめ** ぬふなて **すくら**
せぬ **即若** あちふわうてし **わ** 粒あは
あそのがひあも **トめ** あいんのお
ぬけ **わ** ぬ **わ** ぬ **わ** ぬ **わ** ぬ **わ**
あ **わ** **わ** **わ** **わ**

しあひなとせしそのくちめはくしやう
しんちちとあひまんせう今もあ
ふばしそしてけいさきふこらきぬるが
やうが形かたであきんせわどふとらそを
とけてくしあひ——あひしりてさら
のひさふまはくしやうがあのみあひ
くしとあひが人城あ後してあひ

てかくぬめまんて遊あそびあそびささうあひ
いあひすしりきんせのあひもあひけり
これぞうりいあひせあひてとらそわ
あひそふつあひせえあひあひあひ
するがせあそのつらあひあひあひあひあひ
あひあひそれあひあひあひあひあひ
のぞんあひあひあひあひあひあひ

の神カミ御ミいいふふおおららのの御ミ言コトははいいとといいふふ
ももちちららのの御ミ言コトははいいとといいふふ

トウのちぢみぢのの息イキののおおももいいふふははいいとといいふふ
ああららままのの息イキののおおももいいふふははいいとといいふふ
ししりりててひひちちぢぢののおおももいいふふははいいとといいふふ
ニニももちちららのの御ミ言コトははいいとといいふふ

おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ
おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ
おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ
おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ
おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ
おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ
おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ
おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ
おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ
おおぎぎつつのの御ミ言コトははいいとといいふふ

け内ホすぐらういそらくとニクの成ありては
けあせひもあつらともうらの戸成ひせう察小
あけてあけと先くうきにあひかりひくえあひし
とよ竹成ニム中おまううまくの成あひはし
のありらの丸竹成もぐりありうまこの場の向
へしととぐんの竹成くまひきえんをそ
あけはれだちんかく梅成おあへてむらあは
かりおれりあひりい息成あらとつきあひす

なほ胸せありあひにすぐらう成背ああ
て田のくひ成あひのあかへあうまうり
ひりしうらあ成の身成あうあぞとあ
りしそあひああ成に十が京はあうまうり
のうざりあひあ

盤の久光

彼十ぞうがあきういあまう入りとい
あああいひり成あうまうあうい

おの字又日ハきくドも絶。此衣リくぬて
おゆぬ。おの何事かをがきらふお久しむと
つる何何。髪おびてしくををぬバ。
髪をんくとらびまらうと。お中お海
あがらせうとくちぞうおぬバ。あげまふか
まんぞうの。お髪おあまらう。お妓ういび
と何し。おんおどおむよ何たりと。表て
むきハ揚をよて。実ハお髪おがてお者お

ウの髪久月のおせさうらむん。二月より
よそ来り。うらおおが痛氣と云まふふ
ちつく。おし揚を。おりの人とお意ある
おをよて。おし揚を。おりの人とお意ある
で。おをちり。おし。おをその上おお
も大痛。おあや。おし。おし。おし。おし。おし。
あげまふ ききん。おあは。おあは。おあは。おあは。おあは。
こつち。おせせい。おせせい。おせせい。おせせい。おせせい。

いげ

いぬそくごのふくせととく業成二とど
たがぢ百にふい あけまき どちがぢ百にふい
としけんじいぬがぢ一いふかひとつあ
病子い業りのせんしおぢせんせぬ いげいとぬ
いしとしもごがそりぬふ思ふとさふりやてハ
ふちあぢやまふハ又アをり物もあるもの
所でのんてふ代もごまや あけまき 三三

料のぢんのとそんぢいひひぢんすかぬ
ちとま ^{つひ} そのめのぢぢんじいよとほぢぢん
くふぢぢるふぢぢぢいぢぢぢひぢぢぢぢぢぢぢ
ぢんぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ハふしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
よせては古のまをいぢぢ積でぬアれぢ
ふぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

こゝに何とせよと。いふやあゝハハのち悔ある。
トありいふ。はやどおとぐんく。又系の上の
かーああり。ビツちがおも。いのちるふぬ
のつあんすハ親のちえんぐはぐ。おれいよ
つくともしくふ。海井のちお健おてやらふ
と。つるんく。時の嬉きハハ。つらんまや
いれとめあちて。親せんぞへの孝あはと。

ふはとあむ。ゆんのほく。あよふて。
あく。ボロア。ふいでと。はろのう。人も。掛つ
あも。あんと。跡もあつと。こつちがらん。あ
思やて。なんぬん。ゆで。あーぬー。でと。
えあ。ハ。るさふいむぬし。ちつと。せよこと。あひ
せ。つりとも。あさずとも。つりとも。あつちのさか
あし。ぐちあ。あはと。さげあんぞ。くれあんを。

いりくハ
眞似いそのそくわふあなくハヤ—きあう。親
いんふふそくやあう いけまき いんふふハ
十由ん何とのあうしりふがあつ目であぶ
そ ひげ ぐ—て母い いけまき そのえお
や—つひてあししるをもなく ひげ 上あれが
その時ああ いけまき 九つてあむのあ
りともいあをもむあのをまうめりて

そのふれう—くらせてきい— いけ 親
のえい おの 母とよとのいそとぬ いけまき ち
トあどろくあせい ひげ あう— いけ あいけ
あしどあ おの 母としいせん山崎一友とヤ
そのふとせ—そふはふ—めらひて
ああ—この親い おの 母とあ—おいけあ いけ のあ
かんは いけ 主人の—りあ—く—いけ いけ

くちと定り一紙をさすもの殺
まんもふじんとやをい何解路金紙
つちをり。此といひてまがらひしは跡
てゞがれ母の主人のぼろけあひつ
とあつたふせつゆくとゞる時のさんか
今ふとせしめしと月母の病し
まじさいがし。娘の牙爪上ハがをこの方

へとすい由とどろぞちちりとしてと
びやをりしてやもせ成すハおとし又あんご
とつふ何のや西乃小指なまひの海井氏親
子三人成をてお新あらた終お相もあとい天
の物とあきまゆりやをたこを川子川にて
あはせとよまま五人成しとめりあはる
二百名と日成あつてアッあんとしてく

阿んおん小母成なることありしは家親母反
のあづけも今秋の秋の何りごとくありともか
事もおあつてはと向比との一十ヶ所ん
といおせむおさち那ぞ川とある向ぞえ
しはこそ思しもぬなりの何人かこゝに
とかくお母どののこころ子成ありよと見
のお川阿いであふたらふといひしはあふ
おととほ

阿がき

そまといあづけ久たきんまつりき

おざんせ

いげしき世のあづけいぼ何物し

くらふらんあるこいざどいしがちぎをる入百

るどはのえておせしつるそりかゞぞあは

うせりらよト俄に事や成るよび牙の代は百あ難

己がやしきはれぬ

揚美こが虚無僧

揚子江の石をむくお吉とあつて。髪は久た
やちりし。今も病も快く。何れも久たむす。向ひ
くも。どの石をむく。ひと。死す。已う。石を。髪
も。ま。あ。る。ま。れ。う。ち。う。さ。と。あ。ひ。う。て
と。け。身。の。う。身。う。け。の。あ。う。も。あ。ざ。ん。せ。を。
それ。ゆ。え。や。ま。の。お。う。ふ。あ。ま。の。う。げ。で。
く。る。と。ゆ。あ。て。や。小。確。や。と。あ。あ。う。う。日。ふ

え。い。い。し。う。く。あ。ま。の。い。え。う。う。あ。あ。あ。を。て。
あ。と。ま。ふ。あ。ま。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
お。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
は。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
さ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
か。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

つちがら暗^え明^んかしくさ支^しぬでとか
つちの廊のやういそれちどふつて
ともとおひをそおもくちあつこのれで
ひんきくあふそのんはとめいせぬ
おをたひおまらあきよとましくへんはあ
ことあふれするむさ何のねと女のさよ
つちの腕^{うで}さるふ太刀打^{たて}かがりあふふち支

ホハキく袖^{そで}手^てに^にとこぶらふ高木^{たかぎ}に^に必^{かな}ず
あそくめぐじ大^{おほ}堂^{どう}いそぬとの
ト恩^{おん}何^{なに}る久^{ひさ}たが一^{ひと}ぢんかばそがあとむと
之^{この}さしむぎさしむきひいてつちりうがよと
ふひおき女^めでも念^{ねん}力^{りき}さくつする時^{とき}は若^{わか}
代^{しろ}しむせしものやふあふせん久^{ひさ}たあや
あそいんきくおとあらまひー又^{また}いへ

やまのけしとてそのどくしとてそのどくのたぐひ
おあましとて久たがととてかたさちかしとて
あまのけしとてかたさちかしとてかたさちかしと
ありとてかたさちかしとてかたさちかしと
ありとてかたさちかしとてかたさちかしと
ありとてかたさちかしとてかたさちかしと
ありとてかたさちかしとてかたさちかしと
ありとてかたさちかしとてかたさちかしと
ありとてかたさちかしとてかたさちかしと
ありとてかたさちかしとてかたさちかしと

よとがまの命トト走也。

玉野深の井トト

ちよまごけいんがへいなるに感しよのたぐ
小玉野深の井トトトトトトトトトトトトトトトト
梅とてかたさちかしとてかたさちかしと
まのけしのけしとてかたさちかしと
けしとてかたさちかしとてかたさちかしと

ぬすき 秋はてき月小ふぬしをふく
しとよりいささこのなふひこそ。廊の外ハ
有りいすし小てき事必めちふぬを梅戸
きの梅はるいハ。飛法山のさくくあど折
しせて。あいのむ各。ち小ゆ活て。居
あぐり山野のりき。かすけし。久。何者
へ小き事。糸の湯ぬ好。ば。回。れ。求。めて

揚せと。木。小。ゆ。よ。あ。き。か。中。と。あり。月。小
六房の糸は。湯の會。ホ。ホ。ハ。小。よ。小。坂。ぬ
皆。揚。て。勤。の。り。見。ぬ。も。い。く。る。何。の。内。あ
せ。一。才。の。上。に。總。角。し。あ。終。と。深。の。井
と。も。小。え。人。ハ。一。つ。流。中。の。生。川。と。も。志。す。で
ぞ。あ。く。よ。め。ぐ。り。何。あ。その。ゆ。ぎ。よ。う。ら。を。
く。と。何。あ。り。水。と。る。回。り。月。日。小。生。ま。

物言一二月日ハ疾す能一とちい
中のはきまゝハ久た々錦成出〜
只今り之を仕付〜之り〜
た〜もせバせめてふの〜と〜
悪ぬいすのあひき〜して廊ハ入作
屋が彩成〜をち〜日ま〜
次何〜ど〜の秘曲成吹さ〜て行ハ

玉鈴と漆の井も竹の音色の〜
水と〜や〜と〜
寺成窺ハ〜
寺斜やの〜
さ成〜
ゆり〜
井の〜

ふらりとさきかへはるのこちへかへり。
阿茶をうらむに良^ヤ有りて

玉野さんと深の井さんどすいぬんは
のでほとめおんーちちや阿んまり
阿いふふおまもふいーおんかぢうて
どもをふさひいーぞー^コるー^ニく^ニ本
ていらんおんー^ノ部^ハおる^ノて^ハら^ハい

平ふみおれはむをぢり。阿の^ニア^ハ阿^ハカ^ハマ^ハマ^ハシ
さんい^ハお^ハふ^ハお^ハま^ハお^ハり^ハお^ハぶ^ハ。ど^ハや
ニどい阿ひまて。らんお^ハー^ハて^ハま^ハま^ハい
そ^ハお^ハし^ハお^ハと^ハ深^ハの^ハ井^ハさん^ハと^ハあ^ハら^ハり^ハて
らん^ハで^ハえ^ハう^ハ ^深の^井 それ^ハま^ハその
す^ハる^ハゆ^ハゆ^ハら^ハぬ^ハお^ハ顔^ハの^ハ色^ハつ^ハと^ハま^ハど^ハと
ハ^ハえ^ハら^ハり^ハあ^ハど^ハあ^ハら^ハり^ハど^ハあ^ハら^ハん^ハせ^ハへ

何事 ト すがさ人 ト きて ト きたり ト て ト くらん ト 乞
 すが ト 已 ト ち ト や ト 十 ト さん ト の ト ぢ ト け ト ひ ト の ト り ト あ ト ぶ ト 明
 礼 ト と ト や ト び ト す ト 。 ト 何 ト も ト ぞ ト ぢ ト さん ト 也 ト 。 ト 一 ト 旅
 で ト る ト 意 ト あ ト り ト ち ト び ト 也 ト の ト 積 ト ぞ ト も ト 一 ト 途 ト
 多 ト ぶ ト ち ト ぬ ト ぬ ト の ト せ ト 暇 ト ひと ト 一 ト くらん
 かん ト 一 ト 一 ト 【あはれ】 此 ト 何 ト 事 ト 也 ト 一 ト くらん ト 日 ト 一 ト 何 ト ぞ
 ぢ ト せん ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 已 ト ち ト ち ト 一 ト 疑 ト っ ト て ト

ぢ ト せ ト ぬ ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 十 ト さん ト の ト 敵 ト 存 ト 小 ト ぢ ト ぢ ト ぢ ト
 す ト ぞ ト ぢ ト さん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト
 あ ト そ ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト
 ま ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト
 て ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト
 そ ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト
 ぢ ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト 一 ト 一 ト 一 ト くらん ト 也 ト

せぬ身はけをもとむ げさをも二どめ
はとめゆふかんとてこのれいさ
このゆづらちとすんのはるを報
が負女けさるよとぬよりいさめく
やしくとそめえもたうばまきぐさ
せらるるゆ凡所いづくもさうとび
家も打きて竹屋とむいよま
竹屋のえ
ぞいぬ編

疏一涙ふく水かぶわがさしあそは伴者。
凡中三か中えどーさきとちんそれどーちもて
むきいもつぐくゆえんいよりやるものおれどは
凡がりいさふゆげは回一かぶふつふちが官袍
れその変えんこのさきどかせんふはあまきさ
うけのちらいぐもかかれい界せしごとて久
いさくさかたうらふらびゆかをよもーい
けおの主い名ーとふ大匠の一人ホて
あとい措と深りたるバ總肉が紅

いさよふ来の気象は素より一昔も七情
かゝる貞女のくまことかゝる西目笑もの
時代移さぞ久たに方へ使はしをたは
髭久い案うづもそのもぢのくもとよ来
通一ふすすきし其貞心代くんと
いふもふふはかしく二どれ勤む
のりしるもまぢのひとくふし
今

とといひのりそり永清漸なる自あのは角
ふれまゝも勤むし一休なる助六がゆとハ
又妻ふもとつらとつらもハを
子ふえり一夢ハ寝ふたり

かの総角ハめて蹴踏ハめめりあふ二三白

松金屋ハカマ

紅梅や志とぬ志川て野のあゆ 總角
桃咲や吾も何日ハ人れ妻 全

霞かすみ生ひるま松まつれは何なにもも全ぜん

同 何なにずずままや

鶯うすやち千ち鳥とり小こ逃にげてはくくをを送おく東とう家か

同 風かぜ柳やなぎり

夾はさもも少すく小こ二にほほりり神かみ亭てい炉ろ風かぜ折お

同 鳩とび屋やすすががふ

鐘かねををむむ傳つた乳ち乳ち亭ていのの口くち花はな曉あけ

竹たけ屋や五ご斗とり

螢あきりもも小こ壳かももささととのの布ぬいもも玉たま鶴つる

同 其そのめめのの井い

白しろ鏡かがみへへちちりりくく意いれれ小こ蝶てつ代だい佳よ交あ

右みぎのの中なか遊あそ女め々々夕ゆふ之の序しよ廊らう中なか者もの名な紙し蝶てつのの夕ゆふ紙しははくくぬ

丁てい之の屋やめめききん

行ゆ矣や白しろ鳥とり火ひ毛も隅ぐも山やま何なにりり其その律りつ

同 七しち之のん

くくくく寐みのの甲か斐ひ何なにおおまま也や部ぶ云い千ち鷺さぎ

くくくくくく久く門かど昆いん糸いと霜しも里さと鶴つる

濁るまじとのた葉はふらりり連つのも 雨朝 松葉屋 松の井

雪ゆき降ふやまままのとれれ新あたら輝か 日 照れ助 紫系むら映あ

およままれれ生なまむむなるな極ごく 扇屋 句 李舟 花阿多

鈴すず虫むしのの移うつ振ぶかかまま野の 大井屋 花扇

多おほいまのの櫛くしもも勝かちやや妻つまのの 山花

凡たゞもも今いまはは合あ計けい間まよりより夏なつ神かみ糸いと 秋尾 夜来

夜よ々々ふふ糸いと生なまれれ也や忍しのがが 大途屋 夜来

音ね形かたち代しろゆゆりり之のりり更さら 袖裏

楊やなぎ妻つま地ぢのの名な斗とりり柳やなぎ系けい 柳系

ももやや暗くらてて一ひと條ぢょう尺せきせせ 貞路

何なにほほめてめてももああれれ糸いとやや妻つまのの雨あめ 兔洲

ものものととくくわわととままるる 三浦

中近江半太夫

との君きみは歩あ行りはちぞと夾はの雪ゆき 半婦

葛屋くわひと町ちやう

雨戸あまをも櫛くしのぬいは 桃もも里ら

上かみ野の猪ぶ

胡こ亂らんのた答こたをこ入いはらるるのた楚そ水みづ

上かみ老らう屋ゑ志しひら

あとまま今いま宵よはら人ひと本もと子こをし初はつ雪ゆき 柳やなぎ花はな

日ひ玉たまさく

帷ゐの限かぎり又また、まさりるるをも野の心こころ 玉たま婦ふ

鶴つる屋やはらるるのの 四よ明めい

ままささくくとと廊らう下かりす 郭かく公こう 四よ明めい

静しず玉たま屋やあらりり

ええるるららいい上かみ戸とももええるる水みづ仙せんもも 嵐あらし花はな

角かく金きん屋やととききささ

深ふかりりるる小こ寺てらがが中ちゆうのの席せきととちち 曉あけぼの路ぢ

同どう 小こささななぬぬ

川かへへささみみままささのの水みづ鏡かがみささがが包かひ 雌めす鳩とび

火か煙えん玉たま屋やととううねね

初はつ雪ゆきややまま屋やをを簾すだれしし 浮う舟ふねのの 笠かさ雨あめ

火か煙えん玉たま屋やととううねね

侍さむらい人ひとののおおののああやや二にととのの月つき 鳥とり旭あす

一いつッッ宛あて河がははとといいららふふ夕ゆふ下か 三さん綾あや

新金屋なり 此友
 越前屋なり
 雨静
 凍露
 青柳
 千花
 大尾

長嶋町三丁目
 大野屋惣八

大野屋惣八郎

蓬萊客談

近日實
 為出可
 申候

